

## 第65回大会準備状況

教育史学会第65回大会は、2021年9月25日（土）、26日（日）の日程で神戸大学を大会校として開催いたします。新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、昨年度と同様、オンライン開催とさせていただきます。大会準備委員会では以下のようなシンポジウムを企画しております。研究発表及びコロキウムの申込み等については、本会報と同封の大会開催案内をご覧ください。

\*\*\*\*\*

### 《シンポジウム》

「教職課程と教育史研究・教育」をテーマとして、9月25日（土）の午後（14時10分～17時40分）に下記の要領でシンポジウムを開催します。

報告者：勝山吉章（福岡大学）

神代健彦（京都教育大学）

小国喜弘（東京大学）

司会者：船寄俊雄（大阪信愛学院短期大学・神戸大学名誉教授）

釜田 史（愛知教育大学）

### 《趣旨》

素朴な疑問から本シンポジウムを立ち上げたいと考える。素朴な疑問とは、本学会に集う多くの会員が日夜取り組んでいる教育史研究・教育の営為と成果が教員養成にどのように生かされているのかということである。教育史研究が教員養成にのみ奉仕する学問でないことは言うまでもないことであるが、会員の多くが勤務する大学は、教育史研究が行われる場であると同時にその成果を教育する場であり、そのことを通して教師になりゆく者を育てる場でもある。

そういう場というものに着目するならば、教育史を研究・教育する者たちが集う場としての本学会と、大学という場で行われる教員養成をつないで考えるということになる。しかし、本学会はあまり教員養成に関心を抱いてこなかったように思われる。65年の歴史をもつ学会だが（1956年5月発足）、教員養成の問題を取り上げた大会シンポジウムは、第18回大会（1974年）の「教員養成のための教育史教育の問題点」（提案者……石川松太郎、志村鏡一郎、山田昇）の1回きりである。教員養成に限らず教育史教育の問題に拡大しても、第20回大会（1976年）の「私の教育史教育」（提案者……寺崎昌男、松島鈞、安川寿之輔）、第37回大会（1993年）の「教育史教育と研

究のあり方をめぐって」（提案者……片桐芳雄、対馬達雄）の2回に留まる。それから20年以上が経過して、第59回大会（2015年）に宮城教育大学が「教育史研究と教師の教養形成」（提案者……船寄俊雄、岩田康之、山崎洋子）というテーマで開催して今日に至っている。1980年代半ば以降における国立大学の教員養成系大学・学部の改革再編の動向や、規制緩和策による私立大学の小学校教員養成への大幅な参入などの動向はほとんど何も反映していないといってよい。会員の多くが、自らの教育史研究・教育を通して教員養成の仕事を日常的に遂行しているにもかかわらず、学会の場ではそのことはほとんど何も語られてこなかったといつてよい。

そこで今回、第18回大会（1974年）以来約50年ぶりに教員養成の問題を正面に据えることとした。ただし、テーマを「教員養成」ではなく「教職課程」としたことについて言及しておこう。本学会がこれまでなぜ教員養成を語ってこなかったのかということについて、主催者の中に、学会大会とは、職場での日常の煩わしい教員養成の仕事から離れられる非日常の場所なのであり、そこでは教員養成という仕事にまつわる煩わしい話題ではなく、日頃職場では語れない研究のことを語りたいと学会員の多くが考えているからではないかという仮説めいたものがある。教員養成という仕事に由来する「煩わしさ」ということについても議論したいのだが、「煩わしさ」とは課程認定という教職課程を成立せしめる行政指導に由来するという事情を考慮しないではいられないのではないかと考えたことによる。つまり、教員養成という仕事を、それを成立せしめている諸々の事務作業を含めた教職課程運営を土台として考えたいということである。

教職課程運営のあり方は大学の設置主体によって一様ではないため、私立大学、国立の教員養成学部、国立の非教員養成学部の3類型から、勝山吉章（福岡大学）、神代健彦（京都教育大学）、小国喜弘（東

京大学)の3氏にシンポジストとして登壇をお願いした。発題を船寄が行い、勝山会員「地方私立大学教職課程の立場から一アカデミズムとプロフェッショナルリズムの統合を目指して」(仮題)、神代会員「教育史教育のコンピテンシーとコンテンツ—教職科目と専攻専門科目の教育実践から」(仮題)、小国会員「教育史研究・教育の脱政治化と再政治化」(仮題)の順番で報告をお願いする予定である。

なお、ここで大学という場合、保育士、幼稚園教

師の養成に大きな役割を果たしている短期大学を含めて考えている。また、今世紀に入って幼稚園・小学校教員の養成に参入した私立大学の動向も気にかかるが、いずれも関係の皆さんのフロアーからの発言に期待したい。

第65回大会準備委員会  
委員長 船寄 俊雄

## 機関誌編集委員会からの報告

機関誌編集委員会委員長 宮本健市郎

2021年5月8日に開催された第4回機関誌編集委員会において、『日本の教育史学』第64集に掲載する論文を下記の通り決定しましたので、お知らせします。5編とやや少なめなのが残念ですが、質の高いものと確信しています。

- (1) 太田 素子 (和光大学名誉教授)  
近世瀬戸内海村における養子・「所縁育」の性格と機能  
—一周防国熊毛郡曾根村水場浦旧藩戸籍控の研究—
- (2) 木村 政伸 (九州大学)  
「子はうき世のほだし」考  
—西鶴作品に見る子ども忌避論—
- (3) 岩下 誠 (青山学院大学)  
19世紀中葉アイルランドにおける国民学校制度の宗派化  
—私設公営学校 (non-vested school) の導入と展開—
- (4) 小山 誠南 (北海道大学大学院学生)  
セバスティアン・カステリオンにおける寛容と良心  
—『疑うすべについて』を手掛かりとして—
- (5) 松井 健人 (日本学術振興会特別研究員 PD)  
ヴァイマル共和国における「俗悪図書から青

少年を保護する法律」(1926)の審議過程の再検討

今回の投稿論文数は22編(日本14編、東洋2編、西洋6編)でした。いずれも投稿規程に従ったものであり、すべて受理されました。昨年は26編(うち22編が受理)の投稿でしたので、投稿数の減少が気になるところです。

第62集より論文審査手続が変更になり、本号は、変更後3回目の審査でした。審査は2段階で行われました。第1段階審査では、投稿論文について、採択、修正のうえ再審査、不採択、を決定しました。まず、すべての投稿論文について、二人の審査委員が査読し、詳細な審査票を作成し、それをすべての編集委員が共有しました。次に、各領域の編集委員が、領域ごとの投稿論文をあらためて審査して、平均6点以上を採択の基準として、10点満点の評点を付けました。

6点に満たないが、期日までに修正可能と考えられるものは、第2段階審査に回りました。編集委員会は、これらの投稿論文について詳細な修正意見を作成しました。投稿者はそれを参考として、論文を修正し、再投稿しました。編集委員会は、修正された論文について、第2段階審査をし、ひとつひとつの論文について、最終的な採否を決定しました。

編集委員会は、丁寧な審査をし、質のよい論文を、できるだけ多く掲載したいと思っています。現在の審査手順が万全ではありません。丁寧な審査をして

いるにもかかわらず、投稿者には審査委員のコメントが届かない場合が多いこと、修正にかかる時間が短いことなど、改善すべき事項は少なくありません。今後、編集委員会はもとより、理事会においても検

討し、改善していきたいと思います。会員諸氏におかれましても、ご意見等がありましたら、編集委員会あるいは学会事務局にお寄せいただければ、ありがたく存じます。

## 日本学術会議への政治介入にかかわる教育史学会理事会声明について

教育史学会理事会  
代表理事 米田俊彦

菅内閣による日本学術会議への政治介入について、理事会は10月4日、「日本学術会議への政治介入に関わる教育史学会理事会声明」を全員の賛成をもって決議しました。教育史学会は2017年5月に「教育ニ関スル勅語」（教育勅語）の教材使用に関する声明」を出しました。今回はこれに次ぐ2回目の社会的な意思表示です。

学問の自由が国家権力によって侵害されたうえに、戦前に学問の自由が未確立であったことの問題性、危険性を明らかにしてきた学会としても無視できない問題であると判断し、以下のような文面の声明としました。

2020年10月4日

### 日本学術会議への政治介入にかかわる教育史学会理事会声明

教育史学会代表理事  
米田俊彦（お茶の水女子大学）

教育史学会理事会は、菅義偉首相が日本学術会議の新たな会員に推薦された者の内の6名の任命を拒否したことに對して強く抗議し、被推薦者全員の即時任命を要求する。

本学術会議法は、政府からの独立性を担保するために、会員を推薦する基準を「優れた研究又は業績のある科学者」と規定している。内閣総理大臣が多種多様な学術研究の優劣に立ち入る権能を持ちえないことが明らかである以上、今回の措置では個々の学者の政治的・社会的な発言や活動が基準とされたと考えざるをえない。

「令和の滝川事件」とも称される今回の措置は、1933年に文部大臣が滝川幸辰京都帝国大学教授を「赤化教授」との評判に基づいて休職処分とした事件や、1935年に当時の学会の通説（天皇機関説）を「不敬」とする声に押されて文部省が美濃部達吉東京帝国大学元教授の著書を発禁処分とした事件を思い起こさせる。当時の政府・文部省は強権的措置により学問の自由を抑圧した上で、1936年の日本諸学振興委員会設置、1939年の科学研究費創設、1945年には学術研究会議への研究動員委員会設置などを通じて、「国策」に役立つ「国家有用」の研究だけを選択的に「振興」する体制を整備した。

学術研究会議の後身である日本学術会議が政府からの独立を原則としているのは、戦前・戦中の学界が「国策」に全面協力したことへの痛切な反省に基づいている。学術会議は創設翌年の1950年には「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」という声明を發し、2017年には「学術研究がとりわけ政治権力によって制約されたり動員されたりすることがある」という歴史的な経験をふまえて、研究の自主性・自律性、そして特に研究成果の公開性が担保されなければならない」として「軍事的安全保障研究」に反対する旨の声明を發表した。時々の政権による学術研究への介入は、たとえ直接の標的対象が限定されていたとしても、日本国憲法に定める「学問の自由」を決定的に損ない、学界全体を萎縮させる効果を持つ。さらに、学校教育や社会全般における自由な文化と表現の抑圧につながる行為としても看過できない。

教育史学会理事会は教育史学の発展をもって貢献すべき日本学術会議協力学術研究団体の一学会として、政権による日本学術会議への政治介入に反対する旨、ここに決議する。

## \* 図書

- ・白井克尚『戦後日本の郷土教育実践に関する歴史的研究—生活綴方とフィールド・ワークの結びつき』唯学書房 2020/3/31
- ・出井善次『ゲーリーシステムの研究—大正期日本教育への導入と帰結』星雲社 2020/7/20
- ・中野正堂『近江商人の魂を育てた寺子屋—川島俊蔵の教えに学ぶ』法藏館 2020/8/10
- ・大槻達也、小林雅之、小松親次郎 編著『2020年以降の高等教育政策を考える—グランドデザイン答申を受けて』桜美林大学出版会 2020/9/30
- ・J. A. コメニウス 著、太田光一 訳『パンソフィア—普遍的知恵を求めて』東信堂 2020/9/30
- ・岩下 誠、三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大『問いからはじめる教育史』有斐閣 2020/10/20
- ・松山鮎子『語りと教育の近代史—児童文化の歴史から現代の教育を問い直す』大学教育出版 2020/10/31
- ・J. A. コメニウス 著、太田光一・相馬伸一 訳『パンオルトシア—世界会議の創設』東信堂 2020/11/30
- ・木村 元 編『境界線の学校史—戦後日本の学校化社会の周縁と周辺』東京大学出版会 2020/11/30
- ・日本デュイ学会 編『民主主義と教育の再創造—デュイ研究の未来へ』勁草書房 2020/12/5
- ・高嶋 航、金 誠 編『帝国日本と越境するアスリート』塙書房 2020/12/10
- ・萩原真美『占領下沖縄の学校教育—沖縄の社会科成立過程にみる教育制度・教科書・教育課程』六花出版 2021/1/30
- ・橋本美保、田中智志 編著『大正新教育の実践—交響する自由へ』東信堂 2021/1/30
- ・宮野 尚『ウィネットカ・プランにおける教職大学院の成立過程』風間書房 2021/1/31
- ・竹内通夫『女學生たちのプレーボール—戦前期わが国女子野球小史』あるむ 2021/2/20
- ・人文社会系学協会連合連絡会 編『私たちは学術会議の任命拒否問題に抗議する』論創社 2021/2/20
- ・斉藤仁一朗『米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容—社会科の誕生をめぐる包摂と排除、両義性』風間書房 2021/2/20
- ・岡本拓司『近代日本の科学論—明治維新から敗戦まで』名古屋大学出版会 2021/2/28
- ・殷曉星『近世日本の民衆教化と明清聖論』ペリカ

ん社 2021/2/28

- ・桑島晋平『勝田守一と京都学派—初期思考の形成過程と忘却された思想の水脈』東京大学出版会 2021/3/29
- ・伊藤彰浩『戦時期日本の私立大学—成長と苦難』名古屋大学出版会 2021/4/30

## \* 紀要・ニューズレターなど

- ・能田昴、高橋智「近代日本における災害救済と障害・疾病等を有する子どもの特別教育史研究—濃尾震災と社会的弱者救済の諸相」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』第69集別刷 東京学芸大学 2018/2
- ・石井智也、石川衣紀、高橋智「戦前の東京市における子どもの「貧困・児童労働・不就学」の実態と教育対応—1900年小学校令改正までの多様な初等教育機関（私立小学校・小学簡易科・夜学校等）を中心に」『学校教育学研究論集』第38号別刷 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 2018/10
- ・能田昴、高橋智「1891（明治24）年濃尾震災と石井十次の震災孤児院・岡山孤児院における孤児救済・教育保護の実態」『SNE ジャーナル』第25巻第1号別刷 日本特別ニーズ教育学会 2019/10
- ・能田昴、高橋智「濃尾震災（1891年）による愛知県下の子ども・学校の被災実態と教育復興—災害時に露呈する子どもの生命の位置づけを中心に」『SNE ジャーナル』第26巻第1号別刷 日本特別ニーズ教育学会 2020/10
- ・石井智也、高橋智「昭和初期における東京市教育局の教育改善事業と多様な困難を抱えた子どもの特別学級編制」『SNE ジャーナル』第26巻第1号日本特別ニーズ教育学会別刷 2020/10
- ・『京都市学校歴史博物館 年報』第20号 京都市学校歴史博物館 2020/3
- ・『京都市学校歴史博物館 年報』第21号 京都市学校歴史博物館 2020/6
- ・『筑波大学教育学系論集』第45巻第1号 筑波大学人間系教育学域 2020/10
- ・『大学教育学会誌』第42巻第2号（通巻第82号）大学教育学会 2020/12/21
- ・『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 人間と社会の探究』第90号 慶應義塾大学大学院社会学研究科 2020/12/30

- 『大学教育学会ニューズレター』No. 116 大学教育学会 2021/2/12
- 教育情報回路としての教育会に関する総合的研究会（研究代表 須田将司）『近現代日本の地方教育行政と「教員養成コミュニティ」の特質に関する総合的研究』報告書Ⅲ（2018～2020年度科学研究費補助金（基盤研究（B）） 2021/2/15
- 『立教学院史研究』第18号 立教大学立教学院史資料センター 2021/2/28
- 『すべての市民に無償の普通教育を！—日本学術会議分科会提言からの問題提起』教育関連学会連絡協議会 2021/2
- 『日本仏教教育学研究』第29号 日本仏教教育学学会 2021/3/31
- 『玉川大学教育博物紀要』第18号 玉川大学教育博物館 2021/3/31

## 事務局からのお知らせ

### 1. 書評委員の選出について

2021年3月の理事会において、第65集の書評委員を選出いたしました。選出された委員は以下の通りです。

#### ■第65集書評委員

- 日本：○川村 肇（獨協大学）  
 須田 将司（東洋大学）  
 奈須 恵子（立教大学）
- 東洋： 一見真理子（国立教育政策研究所）  
 國分 麻里（筑波大学）
- 西洋： 小玉 亮子（お茶の水女子大学）  
 河合 務（鳥取大学）

※○は、委員長

### 2. 会費納入のお願い

2020年9月より第64回大会年度が開始されています。5月15日時限で、今年度および過年度会費をお支払いいただいていない会員には、振込用紙を同封させていただきました。会費の納入にご協力いただきますよう、お願いいたします。

年会費納入は、「ゆうちょ銀行」口座からの自動引き落としが便利です。事務局の事務効率化のためにも自動引き落としにご協力いただきますよう、お願いいたします。自動引き落としをご希望の方は、必要書類をお送りいたしますので、事務局までお知らせください。自動引き落としの場合も領収書を発行いたしますので、ご入用の場合は事務局までご連絡をお願いします。

### 3. 会員登録の変更について

住所や所属が変更になった場合は、「会員登録内容変更届」（HPの「事務局からのお知らせ」をクリック）に記載の上ご提出ください。メールでも受け付けております。

### 4. 緊急事態宣言にともなう事務局の体制について

昨年より引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策のため、事務局所在の日本大学文理学部に入構制限がかかっております。事務局へ郵送にての手続きやご回答に遅れが出るのが予想されます。会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒、ご理解をいただきますようお願いいたします。

2021年5月  
 学会事務局 小野 雅章

教育史学会 会報 No. 129 2021年5月25日

編集・発行 教育史学会事務局 小野雅章  
〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40  
日本大学文理学部教育学科  
小野雅章研究室 気付  
電話 03 (5317) 9714  
電子メール [mail@kyouikushigakkai.jp](mailto:mail@kyouikushigakkai.jp)  
郵便振替口座 00140-0-552760 教育史学会事務局

印刷 城島印刷株式会社